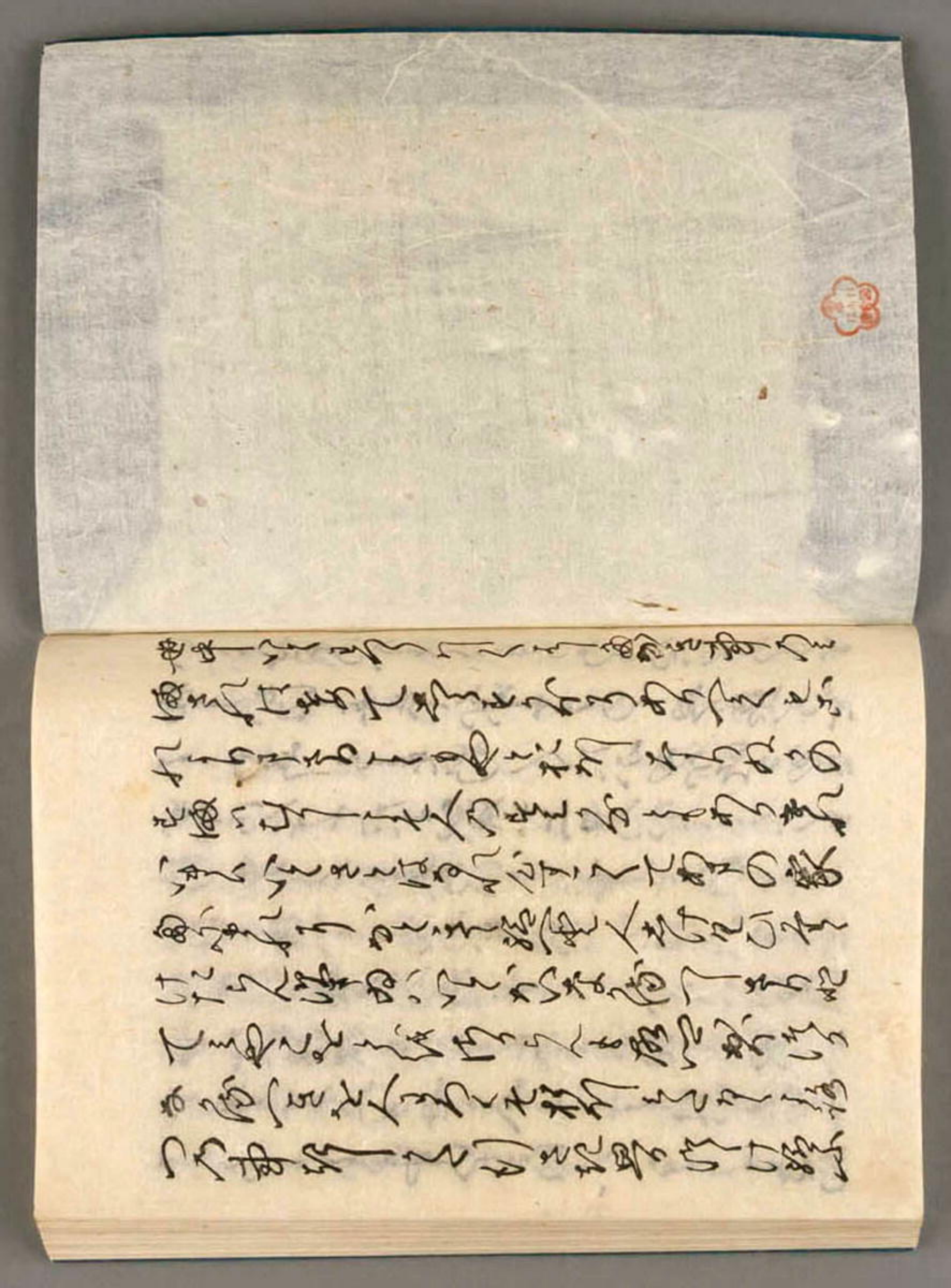
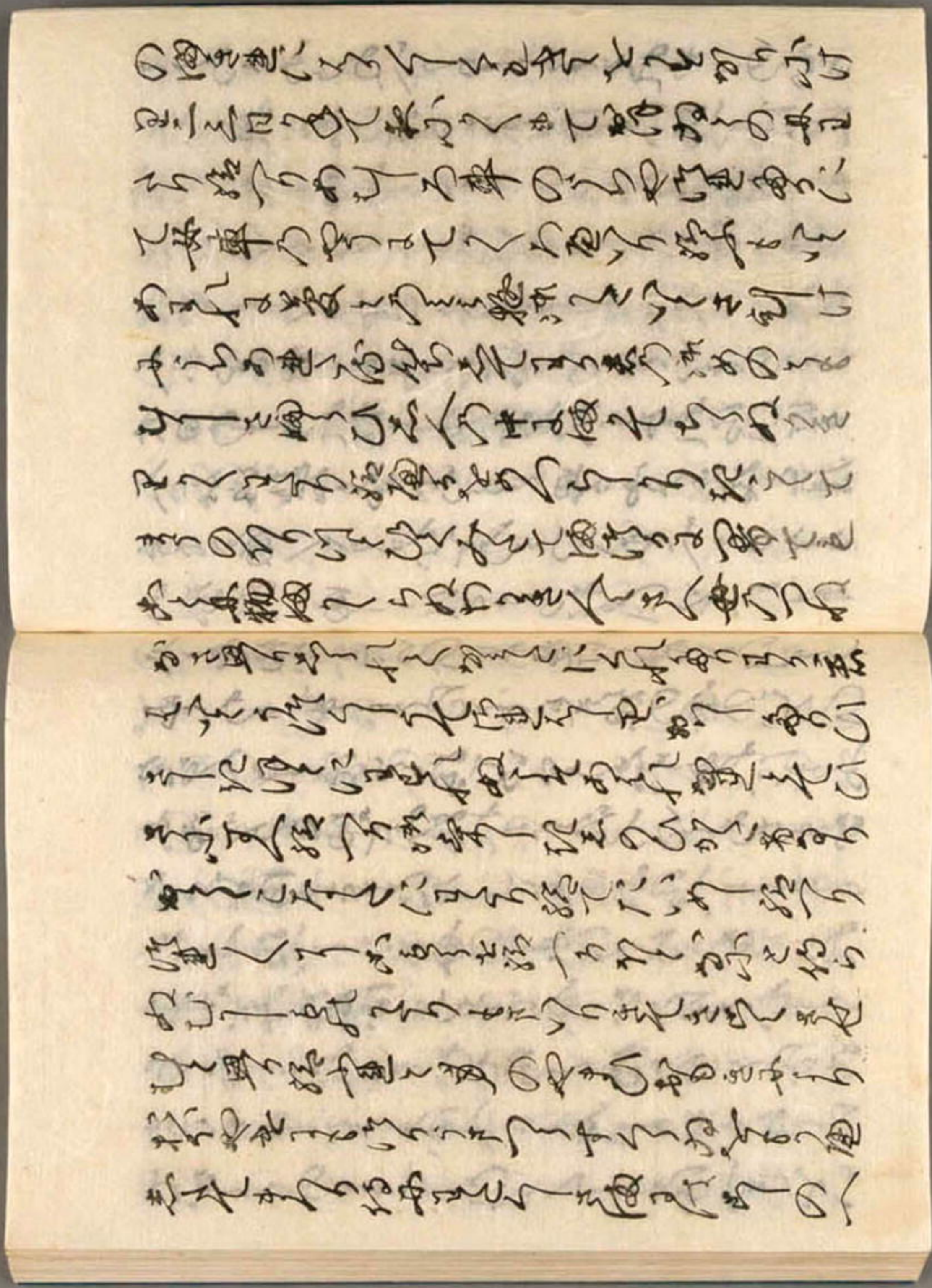
次商

WA7
263

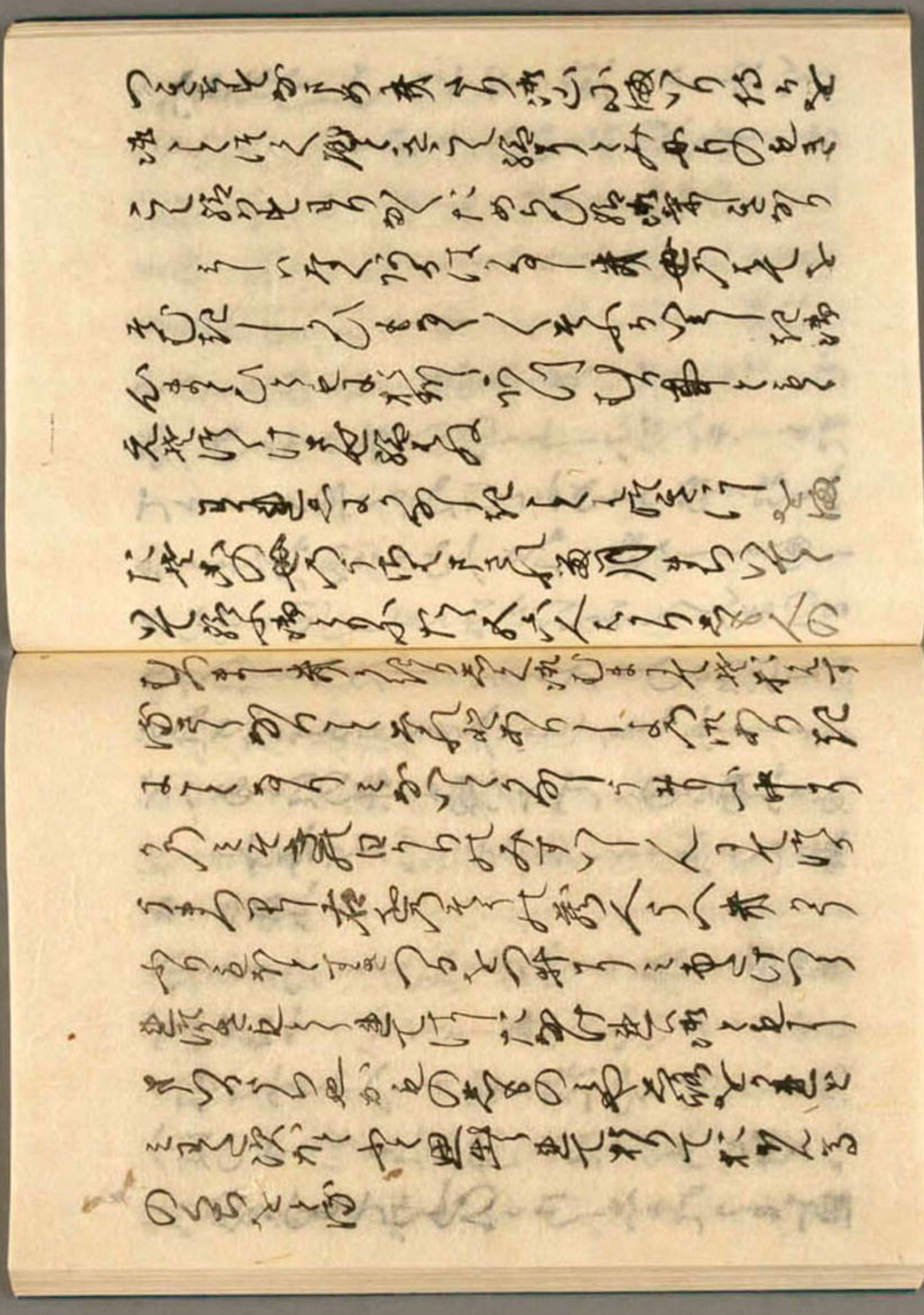


すかしき事いとゞ悲しくなりまさる物
也思すてつる世を今さらすまはかなき人
事なれや浪まてもいてゝさそ聞か
既中にも娘義乃明暮まそへくいはひ
あけき給へるき涙乃かな給しうれなるを
ゆめうてもみわひえん事をいかともさく
おはん人まてたなる我一二日のかくまそく
すわ弟しうち物くたかふ物かなゝさ
物すいおほし女君さんかそうのゝ思ひ給つるを
いくとせそのかくさうかわうたはとめらす

あふさき給ふは色たる程ゆゝしむもさるめる
我世をやうて別つきうるそすらもやといゝと
かすみ初しほつる君のひとくも給さそすり
もやておもわりおれれきさ恥かしほとか
ふん海つるの浪風もおまめる御数人
とかうらんすくらうしぬ記流涙もて氣き
うけ給へらんもいと流さるくまうぬうには
中く物思ひのはれかね〜さるとかくかほりう
つも我女君はいらしうらん物まてもされ中
えもたまわるへくおもむねてうしめしけれ



[illegible]

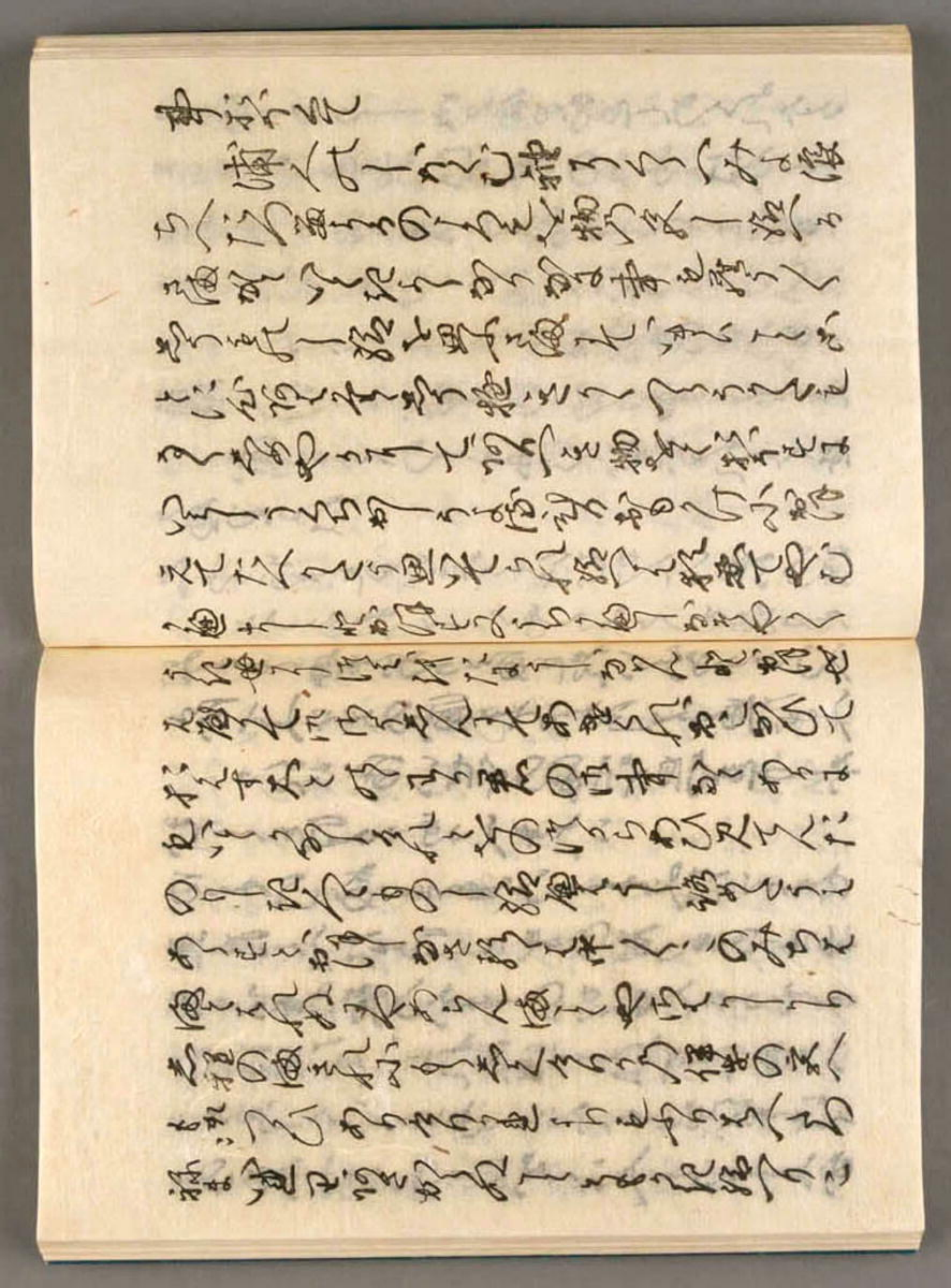


ひきつゞきてあふひゝのしるしみえきと國
へはつらしかはれる河なみとけはい
にほふらん人も雲ま花や、かつらはれ
そのはすさんかたし君をこそむまれかり
ゆくにやしられてかゝる歌ありかり
中志給ふ
うき世をいまそはるくとしのらん君
といふはこの歌は御かをてそのことの申さ給
はれめてするほと人ありて有母しらそ
めされまめてたしやさそまつられける御
うて給くおほしまし志るめりさ御あくかれ
まへの侍るにおもし也ゝ歌さりかきまく
をもりかく歳める人ていゝんとかく猶
紀よさかりなる給との事なくく中
給てやそのこしらとわりもりえうまたま
かり給は孫も侍もうりおもりのたまをし
さ御くの流ゆいこんそつちらきしうきま
人とりふひるしれるはもちの草志け
くかりてまけいり給かしいゝ露有紀り
月をくるもりくれくもりぬ木あらはふく

ときはそれはつねなく人のとりあひけることを
よそのひとにはかりそめのひけめそれ
とみ給ふうちぬきんしすくなくしうちそ
なし給ひしをかへりふるさとのひとてとか
きゝうけてもこのくるまにのりし寄に事かく
てそめのさらぬ人のわれをむけもおかうち
かゝらんのえくてみ御うへをもりいめ屋を
くりそうく志つる様うしわめくれ遊しうと
いとかはし出さらん事りつりまそらして御
やうそこれはもいかく

若御形くしてやくみそく松鴻まれ
志ふう何きをるけさるそはむかんの君の海
御覧ずは

浦まさくめさとみけくむ恋るれてく柱
箱根よりくき花がきけふかう事さよえ
かんとえらい　さくうちて中納言の衣のあら
まわうれわしうけくさ御かとえしうひた
足わられど思ふ哀こて給すくもて内
えらかう逢給ぬひあ君のはやはんとと
まいらすらし御覧ずてめくられなる



[illegible]

[illegible]

[illegible]

くめ逃ん心を我すら世の中のかれん心も我身は
まほりこらなし旅人の心をちらす須磨心の
はかなき秋さりかたさいそかへりさへ
て、とおかうらす須磨にはいとゝ心つくしの
秋風に海はすこし遠けれと行平の
中納言の関吹こゆるといひけむ浪
よる〳〵はけにいとちかく聞えて又なく
あはれなるものはかゝる所の秋なりけり御前に
いと人すくなにてうちやすみわたれるにひ
とり目をさまして枕をそはたてゝよもの
嵐をきゝ給ひ浪たゝこゝもとにたちくる心
ちして涙おつともおほえぬに枕うく
はかりになりにけり琴をすこしかきならし
給へるか我なからいとすこう聞ゆれはひき
さし給ひて

恋わひてなく音にまかふ浦なみは思ふ
かたより風や吹らんとうたひ給へるに
おとろきてめてたうおほゆるに忍はれて
あいなうおきゐつゝはなをしのひやかに
かみわたすと思ふらん心の内かなしくて

さしよ出て旅の空かり鴈がねもつら
になきつれ猶そかくさひしく思ひりていは
ふみ行ましかはふ夢の内のひとり旅て
そさめしまさそられてま心はかなきに
たにもおもひそく色のめ道とかなしみ
て明して浜道のさ海みつわりも月かは
ぬれまかやふみ行しそらふみたひ八十五歳
なりかりやなれし出て旅の浦にそひ旅し
くれくめのめ給らんし昔せやわたまよふ
まつおくと月やんかりの浦和けれ給二千
里か旅人なとさもし給つうさいの秋を吹しめ
られと入道の家に代りやへ息つかさの浦
えさしいとむしとかく遊そくおりくの
まおもひ出給ふよくとかく道給秋ふけ給
ぬとさめ極きて秋いり給らそ
うかとそ忘けしそくさむかうりなん
月の家あれけるかなれとさそのよひの
いくあつしう着物くりかくお給しを御
さ海乃流みてそまつり給つり春くあひしを
思ひそ地あし給て思賜給衣は今さへり

[illegible]

まことに好める人のれらもわかてしをいふ
物し給ふそのくゝやも雨いふとのりわらに
よみ給ひしあきら大納言の君とりめ也けと
くうさくかり給ひとりて笑れ人おりし給
へりしにこくますくまて晴めし給ふ事まう
ひかりる給ふ人のき給ひしかくてうき給
にかくこれ君のとまる給へりてめてゝし
弟女ならをそくれ今は物也とのありゝ
御ぬ中人まりて、わしをてしまくひ井
うち山ひしそめすくれよりからわれ給ふたら

しらめてはる見むりせ、何うさ御なくそ望よ
鄙人とかさ人よわしゆまりりくる身の
ありさ御とらち行しけちれ小思ありてたらき
人え我をかふの数まるをそうし給ひ暑た
御世をえ給ふみし命かくて行ゝ人て
またりれしかい何きまる也成らん海のせこまる入
あん御そ思ひたちく君ん来世く思ひ弟つ
さもかしに二たい住吉小御うてさも世なり神
の流たりしをそ人君まするの思ひ密所と御
みえ年なりて日かくはまとくかりてま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]